

- | | |
|-------------|---------|
| 1. 3月全国行事 | |
| 1) 春の火災予防運動 | 3月1日～7日 |
| 2) 建築物防災週間 | 3月1日～7日 |
| 3) 車両火災予防運動 | 3月1日～7日 |

2. 安全・衛生・防災の心得 : この時期「静電気対策」をしっかりと

3. システム監査 良い事例(抜粋)

4. 事故・災害事例から : 暖めていたスプレー缶が破裂して爆発

5. ヒヤリハット事例 : 狭小場所での激突

2. 安全・衛生・防災の心得 : この時期「静電気対策」をしっかりと

空気が乾燥している冬期は「静電気」が発生しやすく、火災をはじめ思わぬトラブルや事故災害の原因になっています。静電気は、主として物と物との摩擦によって生じたエネルギーの一部が電気エネルギーに変換されたもので、このエネルギーの放電による火災が爆発等の事故を起こします。

特に静電気によって火災、爆発を起こす恐れのある次のような設備については要注意です。

○危険物を収納するタンクやドラム缶及びこれらの危険物を注入する設備

○引火性のものを含有する塗料、接着剤などを吹付け塗布する設備

○危険物等の乾燥設備またはその付属設備

○可燃性の粉体を空気移送、ふるい分けする設備

○その他、危険物や可燃性ガス等を取り扱う設備及びその付属設備、など

これらの設備に対する対策として、労働安全衛生規則等では次のものが挙げられています。

①接地(アース)する

②除電剤を使用する

③湿気を与える

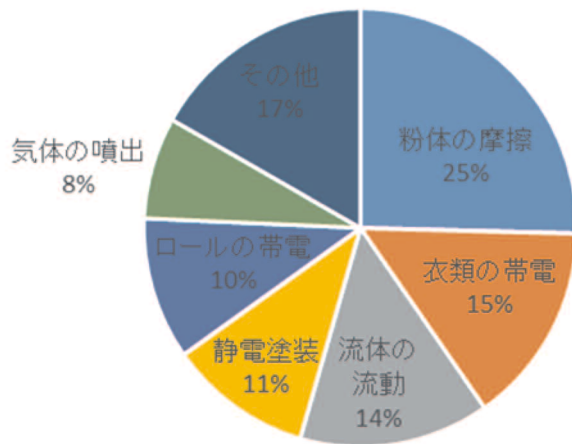
④除電装置を使用する(点火源の恐れがないこと)

⑤その他、静電気を除去する措置をする…など

静電気は、温湿度などの環境条件、あるいは材料や速度などの工程条件によって、発生量や放電の危険性が大きく変化します。したがって大切なことは、これらの除電の装置等が有効に作用するように点検整備し、また定められた作業方法や作業手順を守ることです。

静電気には正しい知識で対処しましょう。

静電スパークによる火災の発生原因('86～'95累計)



3. システム監査 良い事例(抜粋)

①関西工場

厚膜塗装により凹凸のない床面



②前橋工場

LED化された天井天井照明



4. 事故・災害事例から：暖めていたスプレー缶が破裂して爆発

他社事例

(1) 災害のあらまし

金属部品の塗装作業中、寒冷で塗装用のスプレー缶の噴霧状態が良くないので、作業員(男性、30歳、経験10年)がスプレー缶をヘアドライヤーで加熱していたところ、突然容器が破裂して中の塗料が飛散し、近くの電気ストーブで引火爆発して、作業員が顔などに重篤な火傷を負いました。

(2) 災害の主な原因

- ① 容器のラベルに加熱禁止の旨が記載されていたが守られていなかったこと
- ② 職場の安全教育でも高圧容器の加熱禁止が学習されていたが守られていなかったこと
- ③ これまでも噴霧状態が悪いときは容器を加熱していたが、黙認されていたこと
- ④ 電気ストーブが点火源となったこと、など

(3) 同種災害の防止対策例

- ① やむをえず可燃性のスプレー缶等を加熱するときはぬるま湯に浸すなどの安全な方法を用いる
- ② スプレー缶等を使用する場所では、換気及び排気に配慮し、火気の使用を禁止する
- ③ 少量の塗装材料やスプレー等の圧力容器の取扱いについて、安全な取扱い方法を再教育し、注意事項について周知徹底を図る
- ④ 同僚や部下、協力会社の作業員等が不安全な作業方法や行為等を行っている場合は、黙認せず直ちに是正させる(黙認は認可・習慣になる)

(4) 環境安全部から

スプレー缶の塗料等には溶剤等引火性が高い物質が含まれています。危険性を熟知し、使用法には十分に注意しましょう。また本事例のようにスプレーをドライヤーで暖めるなどは経験豊かな作業員ならまず行わないと思われますが、知識がなく経験の浅い作業員では深く考えずにやってしまうことがあり、作業責任者や有機溶剤作業主任者は、作業方法や周囲の環境等に目を光らせて未然の事故防止に務めましょう。

5. ヒヤリハット事例：排水溝隙間での転倒

事例	排水溝隙間での転倒
どこで	製造工場内で
あらまし	液体充填場を歩いている時、排水溝の網がずれていて、隙間が出来ていて足を踏き転倒しそうになった。
原因	安全な通行箇所確保が不足
教訓・対策	通行する箇所は隙間等の危険箇所を取り除く